



日本でもっとも豊かな隠れ里

人吉

Hitoyoshi



日本遺産認定

熊本県南部に位置する人吉は、市街の中心を球磨川が流れています。

人吉では、観光列車「田園シンフォニー」「SL人吉」などの列車旅が楽しめます。

また、5月30日には「人吉鉄道ミュージアム ^{モゾカ} MOZOCAステーション868」がオープンし、鉄道の魅力を多くの人に発信しています。

観光列車、球磨川下り、温泉など、魅力いっぱいの人吉へ、出掛けてみませんか。

寄稿：人吉市 経済部観光振興課





観光列車、ひとよし温泉、 球磨川下りなどを満喫

人吉でとっておきの旅をしたいなら、観光列車がおすすめです。くま川鉄道の観光列車「田園シンフォニー」(前頁写真参照)は、「ななつ星in九州」をプロデュースした水戸岡鋭治氏デザインの列車です。車内は人吉球磨産ヒノキをふんだんに使用し、額縁をモチーフにした窓から見える風景はまるで動く絵画のようです。観光列車としては一日一本運行し、人吉温泉駅～湯前駅まで約1時間かけて旅を楽しめます。「田園シンフォニー」は、予約制の観光列車以外に、通勤や通学などの一般普通列車としての運行もしています。

さらに、熊本駅～人吉駅間には「SL人吉」が11月23日までの概ね月・金・土・日・祝日に1日1往復しています。車両は1922年(大正11年)に日立製作所で製造されたSL58654号機です。1975年(昭和50年)に廃車後、1988年(昭和63年)に「SLあそBOY」として復活し、2005年(平成17年)に再度引



- ① 車内には展望ラウンジやミュージアムがある「SL人吉」。車窓には球磨川の美しい風景が広がる
- ② 美人の湯でも有名な「ひとよし温泉」。モダンからレトロまで様々な温泉が楽しめる
- ③ スリル満点の「球磨川下り」。冬場はコタツ舟も運航する

退しましたが、肥薩線全線開通100周年に合わせて、2009年(平成21年)に「SL人吉」として復活運行を開始しました。「SL人吉」の客室には、展望ラウンジがあり、最後尾ではパノラマ・ビューが楽しめます。球磨川を眺めながら、ゆつたりとした列車の旅を満喫できます。

また、人吉は歴史ある温泉地でもあります。球磨川沿いを中心に温泉が点在し、源泉は80を数えます。市内には温泉旅館のほかに公衆温泉浴場も20数軒あります。お湯が柔らかく、美肌効果が高いことから女性に人気です。

そして、人吉に来たらぜひ体験して欲しいのが、日本三急流のひとつ球磨川を木舟で下る「球磨川下り」です。所要時間に応じたショート・ミドル・ロングコースのほか、スリル満点な激流コースがあり、船頭の熟練された舵取りや人情にふれることができます。(要予約)

休日、人吉でゆつくりと旅を満喫してみませんか。

鉄道の魅力が詰まった

ミュージアムが誕生！

人吉市が建設を進めてきた「人吉鉄道ミュージアムMOZOCAステーション868」が、今年5月30日にJR人吉駅西側にオープンしました。

同施設は、1909年（明治42年）11月に開通し、今もなお当時の姿のまま現役で稼働している肥薩線の文化的価値を多くの人に知ってもらうこと、鉄道の魅力を伝えることを目的として誕生しました。また、市では肥薩線の世界遺産登録を目指して事業を進めていますが、同施設は肥薩線の世界遺産登録推進運動の拠点となるものです。

ネーミングは「かわいい」を意味する球磨弁の「もぞか」から付けられました。施設のデザインと監修を担当したのは、「ななつ星in九州」をはじめJR九州の観光列車などのデザインで知られる鉄道車両デザインの第一人者・水戸岡鋭治氏です。

円形で木造2階建ての施設は木のぬくもりがあふれ、楽しい仕掛けがいっぱいです。人吉駅からMOZOCAス



人吉鉄道ミュージアム

MOZOCA STATION 868

テーションまではミニトレインが運行し、
1階は肥薩線をはじめとする鉄道紹介のゾーン、子どもが楽しめるゾーン、
カフェ、2階はミニ図書館や学習コーナーなどがあります。2階の屋外と3階の屋上からは、目の前に石造りの機関車庫が見えます。

MOZOCAステーションは肥薩線の世界遺産登録に向けた情報発信の拠点として、子どもも大人も市民も観光客も楽しい時間を過ごせる空間として、まだどこにもない未来の駅を目指します。





[2]



[3]



[1]

MOZOCAの 魅力を内外に発信！

MOZOCAステーションがほかの鉄道博物館と違うところは、SL人吉をはじめ本物の列車を目の前で見ることができるところです。場所は、国内で唯一といわれる石造りの機関車庫の目の前。列車本体の展示はありませんが、肥薩線を行き来する“生きた展示品”を備えています。

肥薩線という地域の宝を未来につないでいくためには、次代を担う子どもたちに鉄道に興味を持ってもらうことが重要です。鉄道を身近に感じてもらう仕掛けがいろいろの館内は、いつも子どもたちの笑顔があふれています。人吉では数少ない、雨の日でも安心して遊べる施設としても人気です。

今後は肥薩線やくま川鉄道の企画展示など様々なイベントが計画されていますので、ぜひお越しください。



[8]



[7]



Information

人吉鉄道ミュージアム MOZOCA ステーション 868

電話／0966-48-4200

住所／熊本県人吉市中青井町343-14 (JR人吉駅西側)

開館時間／午前9時～午後5時

休館日／毎週水曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始

料金／入館料無料、ミニトレイン(片道)100円、レイルバイク(1回)100円

駐車場／JR人吉駅前広場駐車場利用(20分以内無料、60分毎100円)

※近隣の店舗などへの無断駐車や路上駐車は絶対にしないでください ※就学前の子どもは必ず保護者同伴で入館してください

※ペット同伴での入館はできません ※ごみ箱は設置していませんので、ごみはお持ち帰りください



[1] 人吉駅とMOZOCAステーションを結ぶミニトレイン。雨の日は館内を周回する [2] 水戸岡氏デザインの観光列車をはじめ、九州を走る列車がずらり [3] 実際に肥薩線などで使用されていた物品が展示されたコーナー [4] 子ども用の机と椅子が並ぶ「こども工房」 [5] 大畑駅のループ線とスイッチバックを再現したジオラマ [6] ミニトレインに乗っているとSL人吉が見られるかも [7] 木でできたボールが入った「木のボール」など子どもたちの遊び場がいっぱい [8] 休憩スペースもおしゃれ [9] 2階のデッキからの眺め。SL人吉が止まる機関車庫は目の前だ [10] 鉄道グッズのコーナーも [11] 子どもが伸び伸びできる空間





人吉球磨の歴史・文化が 文化庁の日本遺産に認定

4月24日、人吉球磨地域の歴史・文化をつなぐストーリーが日本遺産に認定されました。日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語る「ストーリー」を認定するもので、文化庁が今年度から創設した制度です。

認定されたストーリーは「相良700年が生んだ保守と進取の文化」。鎌倉時代から約700年間にわたってこの地域を治めた相良氏は、ウンスンカルタや球磨焼酎といった民衆の文化を守りながら、寺社の建築様式などに新しい文化を取り入れてきました。現在も多くの文化財や風習が大切に受け継がれていて、ストーリーは41の有形・無形の文化財で構成されています。

人吉球磨10市町村では、今後これらの文化財を整備・活用し国内外に発信していきます。



上／願成寺の仏像。領主相良氏の菩提寺の第一で、江戸時代は郡内の宗教世界を束ねる地位にあった格式高い寺院。裏に代々当主の墓が集められた相良家墓地がある中／相良氏は水量が豊富な球磨川を交通および米や木材などの物資の輸送に利用した

下／臼太鼓踊り。相良氏による武道奨励・土気鼓舞を目的に始められたとされる踊り。現在も郡内各地で伝承されている



国宝 青井阿蘇神社。
領主相良氏の保護を受け、江戸時代には人吉藩領内の総鎮守として藩主・民衆の信仰を集めた神社

日本遺産の構成文化財（人吉市内の代表的なもの）

井口八幡神社／人吉温泉／青井阿蘇神社とおくんち祭／ウンスンカルタ／老神社／人吉城跡／大信寺／願成寺と相良家墓地／岩屋熊野座神社／球磨焼酎／人吉球磨の民謡／焼酎墓／球磨拳／庚申信仰と庚申塔／相良三十三観音めぐり／球磨神楽／臼太鼓踊り／球磨川

※人吉市だけでなく球磨郡9町村にある多くの文化財群がストーリーの構成要素となっています